
world is game

[AKI*]

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

World is game

【Nコード】

N4135N

【作者名】

「AKI*」

【あらすじ】

World is gameというゲームが存在した。

そのゲームは人生をもう一度遊んでみないか？という内容だった。これはこのゲームをプレイする人々の不思議で謎の物語。あなたもプレイしますか？

player (前書き)

はじめまして！「AKI*」です。

初めての投稿と小説作成でしたので
不安いっぱいです！w

あたたかくお見守りしてください！

最後まで読んでくれると幸いです！

player

World is game

という名のゲームが存在する。

そのゲームは世に出回ってはいない。

そのゲームを知ってる人は少ない。

そのゲームは突然現れる。

手にした者は、一度だけそのゲームのプレイをする事が出来る。

ただし、プレイスタートした瞬間そのゲームは消える。

そのゲームを一度でもプレイした場合。

意識は吸い込まれ、記憶を失い、魂が完全にゲームの中に入る。

残るのは当然、肉体のみ。

そのゲームは、クリアとゲームオーバーが存在する。

クリアすることが出来た場合、元の世界に戻り、魂と肉体、記憶が戻る。

ゲームオーバーになれば、そのゲームをさまよい続けることになる。もちろん帰っては来れない。

そのゲームはどのような事をするか。

簡単に言うと、もう一度 人生を、この世界でやり直そう。

そういう内容だ。

制作者も分からない。そのゲームは。

今もなお、いろんな人達をプレイさせ続けているだろう。

僕は今、一人でぶつぶつ、説明しながら。

目の前にあるPCを立ち上げ、その中にある world is gameを起動させた。

「もう一度、人生を楽しみませんか？」

そんな声がスピーカーから聞こえた。

そして画面には。

このゲームをプレイしますか？

はい。いいえ。

と書かれていた。

僕はこのゲームが現れてから調べ、いろんな事がわかった。

調べれば調べるほど興味が湧いた。

今、プレイしてみたくなり 起動させてみただけ。

ゲームオーバーになることが怖い。

しかし今の自分を変えたい。

「こんな人生なんか嫌だ。」

僕はそう言って「はい。」のところにカーソルを合わせEnta
キーを思いっきり押した。

「ようこそ。 world is gameの世界に。 もう一度人生
を楽しみましょうね。」

そんな不気味な笑い声が鳴り響いた。
そして僕は。

意識がそこで切断された。

player (後書き)

どうでした？

ぐだぐだかも…。説明部分読むのめんどろだよね？w

今後もよろしくね！

バグ（前書き）

まだ初心者だから温かい目で読んでね。

バグ

World is game

それをプレイすると始め記憶はリセットされる。

僕はこのゲームを始めてた。

きっかけはただ、同じことの連続や世界への不満、自分の愚かさ
に飽きを感じて面白そうだからこのゲームを始めた。

このゲームは、ゲーム中へ入りもう一度人生を楽しも という内容
だった。

もう一度、人生をやり直すのだから記憶は消える仕様だったらしい。

8

しかし僕は消えてはいなかった。

目が覚めると、光が眩しいくらい当たっていた。

どうやら生まれてくるどころだったらしい。

しかし記憶がある。

赤ちゃんなのに記憶は大人レベルだった。

だから泣かなかった。しかし呼吸がうまくできず。そのまま気を失
った。

目が覚めると 美しい女性に抱えられていた。どうやらお母さんという設定らしい。

記憶が正しいならばこの女性もプレイヤーなのか？そう僕は思った。

僕はこの時、思った。

この方は記憶を失い、人生をリセットしたのだから普通に生きてる気なのだろう。

赤ちゃんがいきなり話始めては混乱するだろう。

僕はこの女性の子供を演じる事にした。

それから随分と時が経ち、僕はすっかり高校生になっていた。

僕にはゲームを始める前の記憶があるが、人生をリセットしたのだから楽しまないとなくすと思ひ、いつのまにか高校生になっていた。

随分、速かった、受験、勉強が楽しいぐらい簡単だった。

僕は新しい人生を楽しんでいた。

しかしこのゲームを始める前のことを思い出すたびに恋しくなった。

思い出すたび、考えてしまう。忘れようとしても、なお考えてしま

う。

「……この世界、ゲームなんだよな？」

と…………。

そうつぶやいた。

すると、隣の仲がいいわけでもないクラスの同じ生徒が何か言ってきた。

「なあ 何、変な独り言 言ってたんだ？」

僕は聞いてみた。

「この世界がゲームだったらどうする？」

……………。

少し考えたのか少し間があいたが応えた。

「クリアすればいいんじゃないかね？」

僕「だよな…………。でもクリアって何すればいいんだ？」

「さあ…………。」

僕「このゲームをやめたい時どうすればいいのかな…………。」

隣の子「え？ゲームってことで話続いているのかよ（笑）」

「ゲームオーバーなればリプレイするかしないか出るだろうっ？そこ

でしない選べばいいんじゃない。」

僕は驚いて言った「そっか！」

すると隣の子が「どうせゲームなんだったらいろんなこととしてから止めればいいんじゃないー！」

と、ハイテンションで言うてくる。

僕は「え？あ、うん。」としょつもない奴を見る目で彼を見た。

隣の子「別に変なことしないから、その目やめろ。」

僕「もういいよ……………」。

隣の子「え？あ、うん、飯まだだから学飯行ってくるわ」

僕「あ、おう、行ってらー」

そういつて去っていく。

(ゲームオーバーかあ……………。)

「よし！もう現実で生きるか！現実と向き合おう。逃げちゃだめだよな。」

戻り、本当の自分、本当の世界で生きたい！

そう思い始めた。

- - - - - 1

学校の屋上。 1

- - - - - 1

僕はゲームオーバーといえは死ぬことしか思いつかなかった。

RPGゲームでよくあることだ。

パーティーメンバーが全滅するとゲームオーバーになる。

僕は死ぬことがこのゲームのゲームオーバーだと思ってここへ来た。

ゲームなので目をつぶれば怖くない、痛くない と自分に言い聞かせて。

そして飛び降り、僕は。

死んだ。

「!?!?!?!?!」

元の世界のようだ……………。

その時思った。

このゲームはゲームオーバーになると……………。

自分が戻って来れたのは奇跡?と思った。

そして元通りの世界、自分に向き合い生きることにした。

その時からいつも何かあると頭に浮かんでくる疑問があった。

「この世界は本物?ゲーム?」

バグ（後書き）

ふっふふふ。またもや落ちてないね。

これ読んだ後に考えはだめだよ！

「この世界は本物？ゲーム？」という疑問は！わかった？いいね！

では今後もよろしくね！

エンドレス(前書き)

(・・・) 汗汗

エンドレス

この世界はGAME

そう言っていた。奴は……。

僕は一度 World is game というゲームをプレイし。

奇跡的に元の世界に戻ることができたことがある。

それから僕は自分の命の大切度を知り、今ここに生きている。

あきらめかけていた人生も やり直せると信じ、必死にがんばっている。

僕は今 世界中に困ってる人々を支援するボランティア団体に所属し
世界中の困ってる人々のためになるような事をしていた……。

「ありがとう」「その言葉をもらったたびに」「またがんばろう」と
いう気持ちになる

言葉は違うけど 意味は一緒だ。「ありがとう」「という言葉は世界

どこでも意味は変わらない。

とても素敵な言葉だ・・・。

そんな感じでがんばってきた自分だが。

自分の目の前に 息を引き取った者もいる・・・。

悲しい現実だ。

そして今 また 目の前で息を引き取った者が・・・。

紛争の流れ弾があたり そこから出血が酷く。

さらに体力をつける事ができない環境で生きてきた体には出血を止める事ができなかった。

これが世界の現実だ。 いくら命を救っても 救えきれない命がある。

戦争や紛争 争いを止めようとし、その結果争いが起きる。
その悪循環

僕はそんな世界の姿に 不満を覚えてたせいか

カッとなって 戦場に飛び出してしまった

「やめろおおおおおおおおおおおおおおおおおおおお

おおおおお

当然言葉が通じるはずもなく 銃撃戦が止まるはずもなく

僕は 撃たれた。

激痛が走った。

目の前が真っ白になった。

だんだん体から力が抜け 痛みを忘れるほどの眠気がきた。

眠気ではないがそれに近いものに負け

目の前がすべて真っ暗に変わってしまった。

!!?

「Game over」

突然 真っ暗で何もない映像に赤色の文字でゲームオーバーという文字が浮かんだ。

見た事がある、そうこれは

前にWorld is gameというゲームから元の世界に戻る
時に出てきた 終わりという意味の
言葉だ。

ああ、僕は今までだまされていたのか。

あの世界がゲームなのではなく すべてゲームだったとは。

気がつくと病院にいた。

声が聞こえ声の方向に顔を向けようとした時

頭に大量の記憶が流れた。 どうやらこの世界の記憶らしい

僕は修学旅行の部屋割けの時に一人ぼっちになってしまい

どのグループにも入れないでいて 先生に言われ あるグループに
入れさせてもらえたが

そのグループに拒否され。 結局一人ぼっちになってしまった。

僕悲しすぎて 自殺を 試みたが、そのときに謎の声に導かれ

あのゲームに出会い プレイしてしまった。

そしてあの世界でも そのゲームに出会い プレイしてしまった。

今の世界 前の世界 ゲームの世界・・・。

前の世界がゲームの世界だった・・・。

今の世界 ゲームの世界 ゲームの世界。

僕は気づいてしまった。

今の世界もゲームではないのか!?

僕は声の方向に顔を向ける事をやめ、窓の方向に意識を向けた

そして

死んでみた。

G
A
M
E

O
V
E
R

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4135n/>

world is game

2010年11月17日02時42分発行